

Title	中国人女子留学生を受け入れた私立三校について：民国初期を中心に
Sub Title	A study of Chinese women students accepted by three private schools : focusing on the early years of the republic of China
Author	周, 一川(Zhou, Yuichuan)
Publisher	三田史学会
Publication year	1999
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.68, No.3/4 (1999. 5) ,p.61(285)- 103(327)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19990500-0061">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19990500-0061</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

—— 民国初期を中心に ——

周 一 川

## 目次

はじめに

一、女子美術学校

二、東京女子医学専門学校

三、日本女子大学校

おわりに

## はじめに

民国初期における中国人女子留学生の留学先は清末のように実践女学校のみ集中せず、高等学校や専門学校にまで拡大してきた。その中、東京女子高等師範学校、奈良女子師範学校、東京高等蚕糸学校における状況については、拙稿「中国人女子留学生を受け入れた官立三校について」(本誌六七巻第一号、一九九七年)で論じた。

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

偶然とも言えるが、民国期に中国人女子留学生を受け入れた官立三校すなわち東京女子高等師範学校、奈良女子師範学校、及び東京高等蚕糸学校以外に、比較的集中して中国人女子留学生を受け入れた私立学校が同じく三校があった。それらは女子美術専門学校、東京女子医学専門学校、及び日本女子大学校であり、いずれもみな二〇世紀はじめに創立され、近代日本の女子高等教育機関の先駆的役割の一翼を担っていた。これら私立三校は創立後まもなく、中国人女子留学生を受け入れた。

女子美術学校についてはその後身である女子美術大学に保存されている学籍簿を基本資料として留学生の実態を分析する。東京女子医学専門学校の留学生については、三崎裕子氏の調査があり、<sup>1)</sup>ここでは、それを補充する形で論じる。日本女子大学校については、既存の刊行資料

に拠つてまとめた。

### 一、女子美術学校

#### (一) 中国人留學生の統計

女子美術学校はその前身を私立女子美術学校といい、一九〇〇年十月に設立され、一九〇一年の四月に最初の新入生を迎えた。一九一九年九月に女子美術学校と改称し、一九二九年六月に専門学校に昇格し、校名を女子美術専門学校と改めた。そして一九四九年二月の学制改革により女子美術大学となった。

中国人留學生は一九〇三年から一九三九年まで、一九一二年と一九三二年の兩年を除いて毎年来校した。この学校の中国人留學生總数は二六七名であり、その数は中国人女子留學生を受け入れた学校の中で一番多かつた。さらに、再入學者が多く、延べ人数は三一七名にのぼつた。また卒業者は一二八名であつたが、重複者も多く、卒業者の延べ人数は一四七名であつた。

現在の女子美術大学に保管されている学籍簿により、筆者は「私立女子美術学校（女子美術学校・女子美術専門学校）中国人留學生名簿（一九〇三年～一九四八年）」（「付録」を参照）を作り、さらに「表一」～「表五」の

中国人留學生統計表を作成した。中国人留學生が在学せず、短期間で廃止になつた蔣絵（漆工）科と彫刻科は統計表では省略した。

#### (二) 中国人留學生の概況

最初に入学した中国人留學生は湖北省出身の王蓮であつた。一九〇三年二月に二四歳の王蓮は選科普通科西洋画科に入学した。同年にもう一人の中国人留學生が入学した。彼女は上海出身の曹汝錦であり、同じく西洋画を学んだ。二人とも帰国などの原因で、中途退学した。

この時期の女子留學生はいわゆる「随伴留學生」であり、父兄および夫の都合によつて、退学する者が少なくなかつた。最初に卒業した中国人卒業生は広東省出身の鮑桂娥であつた。彼女は一九〇七年三月に入学し、同年の一月に編物科速成科を卒業し、さらに一九〇九年三月に編物科選科普通科を卒業した。普通科の最初の卒業生は一九〇六年に入学した張晋慧と方萌であつた。二人は一九〇八年三月にそれぞれ編物科選科普通科と刺繡科選科普通科を卒業した。著名な革命家何香凝は一九〇九年四月に入学し、日本画科選科高等科で勉強して、一九一一年に卒業した。

「表一」と「表二」を見ると、留學生の希望した学科

がわかる。刺繡を学ぶ者が一番多く、全部で一一名であり、卒業生は五九名であった。二番目は造花科であり、入学者が八三名であり、卒業生は四一名であった。三番目は西洋画であったが、「表三」と「表四」からわかるように、入学者の七五名の中に卒業生はわずか二三名であった。編物科は長く続かず、女子美が専門学校になった以後はなくなり、その前の数年間も六カ月の速成科しか残らなかった。編物科の中国人留学生入学者二八名の中で速成科の学生が一名であり、卒業生の一九名の中で速成科の学生が一〇名であった。日本画科の中国人留学生入学者はかなり少なく、一二名であり、卒業生はわずか三名であった。裁縫科には一九三〇年までに中国人留学生は一名もいなかったが、それは和裁であることが原因だと思われる。一九三一年に師範科裁縫部に一名台湾出身の留学生が入学し、その後、専修科に設置されていた洋裁部に三名の中国人留学生が入学して、二名が卒業した。別科には中国人留学生は一名もいなかった。

学籍簿により学生の住所と出身校がわかる。それによると中国人学生の中には華僑と思われる者もいる。彼女たちは横浜の山下町等に住み、出身校は日本の学校であり、父兄の職業は商人等であったので、日本に生まれ育

ち、一生日本にいる可能性が高かった。正確には判断しがたいが、もしそうであれば、厳密には留学生ではなく華僑学生と言える。

女子美術学校の中国人留学生は独自の特徴を持っていた。それは再入学者・重複卒業者が多かったことである。この学校は各種学校令によって設立されたものであり、普通科は高等女学校に、高等科・研究科は専門学校とほぼ同等の位置をもったと考えられる。それに、技術の短期修得を目的とする速成科（六カ月）も設置された。つまり、女子美にはさまざまなレベルのコースがあり、多種の専攻もあったので、一人が何回も入学でき、卒業も可能だったのである。四川省出身の張吟秋は、西洋画科選科、西洋画科選科高等科、西洋画科研究科、西洋画科高等科に四回入学し、ともに卒業した。張吟秋は一九一七年から一九二八年まで一年をかけ、一筋に西洋画を勉強し続けたが、これと異なり、別の専攻に再入学の留学生もいた。鮑桂娥は一九〇七年と一九〇九年に編物科速成科と編物科選科普通科を卒業した後、一九一一年に刺繡科選科普通科を卒業した。一つの科を卒業し、他の科を退学した留学生も少なくなかった（「付録」を参照）。

(三) 中国人留学生が最多の理由

女子美術学校への中国人留学生の入学は、清末以降、民国初期、その後と変わらずに続いた。清末に中国人女子留学生は二〇〇名余りが実践女学校に入学したが、同時期には女子美術学校にも六一名の中国人留学生が入学した。民国初期にはさらに百余名が入学した。二〇世紀初からの半世紀の間に、女子美術学校は二六七名（延べ数三二七名）の中国人女子留学生を受け入れ、日本の各学校の中では一番多かつた。その理由はいくつか挙げられる。

第一、二〇世紀初めの中国は女子教育が始まったばかりであったので、正式の女子教育を受けた女性は少なく、中国人女子留学生の教育水準が低かつた。女子美術学校は各種学校令によって設立されたものであるので、入学資格も学科によりさまざまであり、中国人留学生に入学の可能性を提供した。

第二、女子美術学校は入学試験がなかったので、それも中国人留学生の集中した重要な原因と思われる。一九二八年に刊行された宗内正編『女子に開かれたる勉学の道』という書物では、次のように女子美術学校のことを紹介しているとのことである。「入学試験」なし。在学中の成績により入学を許す。但し裁縫科高等受験科のみ

裁縫の理論及実地の試験がある<sup>(3)</sup>。一九三七年に改正した「女子美術専門学校規則」をみると、専門学校時期の女子美には留学生の試験があつた。その規則の第七章「外国人ノ入学」に「外国人ニシテ入学ヲ志望スル者ハ定員内ニ於テ特ニ詮衡ノ上許可スルコトアルベシ入学ノ際高等女学校卒業程度ノ試験ヲ施シ成績優良ナル者ハ高等科又ハ師範科別科ニ入学セシム<sup>(4)</sup>」と決められていた。

第三、女子美術学校の修業期限はコースの違いにより、六カ月、一年、二年、三年、四年等不同であつた。それは父兄に連れられて附属性が強い女子留学生にとっては、家庭の都合に合わせて留学できる便利な学校であつた。

第四、学科が多く、中国人留学生に専攻選択の自由度を提供した。中国女性の伝統教育にもつながりそうな刺繍学科もあるし、女性らしい造花、編物等の学科もあるし、女性に人気がある画科もあるので、美術教育を目指す女性とエリート<sup>(5)</sup>の妻を目指す女性にふさわしい学校と言える。

第五、女子美術学校の学費は最初は安かつた。一九〇七年刊行の『東京名所図会』の中では、当時の学費について「入学金二円、授業料本科選科共に普通科は一箇年二十四円、毎月分納高等科は三十円、毎月分納研究科三

十円、毎月分納宿泊料一箇月七円」と記されているとのことである。<sup>(5)</sup>一九〇九年に「授業料、普通科二十四円を三十三円六〇銭に高等科三十円を三十九円六〇銭に増額する<sup>(6)</sup>」ということになったが、同時期の東京女子高等師範学校の留学生の学費は文科六〇円であり、理科と技芸科百円であった。<sup>(7)</sup>その後、女子美術学校の学費がまた上がったが、留学生が集中していた選科、専攻科などの学費は一年間に五〇円から六〇円の間であった。

以上の理由で、女子美術学校の中国人留学生の人数は多かったが、厳しい試験を行った学校と比べて、一部の学生のレベルは低かったと思われる。それに、さまざまな目的を持った学生がいたが、「付録」の中国人女子留学生名簿から分かるように、家庭の都合で簡単に退学する者と、授業料を払わず無断欠席で除名された学生も他校より多かった。

二〇世紀初めからの半世紀、女子美術学校には中国人留学生が絶えず来校し続け、女子教育事業を初めて興した中国の女子教育と、社会的な女性生活の意識に大きな影響を与えたと思われる。「学部」の「女子小学堂章程」「女子師範学堂章程」は、女徳を強調し、小学堂は修身、国文、算術、女紅、体操の課程があり、随意科は音楽と

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

図画であった。女子師範学堂の主要課程は修身、教育、国文、歴史、地理、算術、格致（物理学、化学）、図画、家事、裁縫、手芸、音楽、体操等であり、女子美と関係がある科目が少なくなかった。民国初期の「壬子癸丑学制」やその後の中国学制も、小学校・中学校・師範学校等の各類型学校に図画や手芸は不可欠の科目であった。女子美術学校の学生たちは女性師範不足の中国に戻って、教育関係の仕事をしていた者もいた。徐祖馥は帰国後、北京の孔徳学校で教師として勤めたとのことである。<sup>(8)</sup>

女子美術学校は中国人留学生の留学教育の役割の一翼を担ってはいたが、留学生の目的と専攻や性質により、帰国後の学生たちは家庭に戻る人が少なくなかったと思われる。女子美術学校の卒業生たちの帰国後のことについては、まだ十分明らかにされていない。今後の課題としたい。

## 二、東京女子医学専門学校

### (一) 中国人留学生名簿の補充

東京女医学校は一九〇〇年に吉岡荒太、弥生夫妻によって設立された私立の女子医学学校である。一九〇四年に私立学校として認可され、その後一九一二年に専門

学校に、一九二〇年に文部大臣指定医学専門学校に昇格していた。

三崎裕子氏の調査によりこの学校は一九〇八年から中国人女子留学生を受け入れ、一九四二年までに入学者は二二三名、卒業者は一〇七名であったことが知られる。

三崎裕子氏は「東京女医学校時代の後半、および東京女子医学専門学校の入学生登録簿が欠損しているため、その全てを網羅していない」と述べているが、筆者は外務省外交資料館の資料調査により、いくつかの東京女子医学専門学校と関係がある資料を見つけたので、これをもとに名簿を補充したい。

外務省記録の警視庁「支那留学生調査表」(大正三年一月十日現在)に中国人留学生の名簿があり、その中に東京女医学校の学生の氏名も載せてあり、「表六」のようである。

「表六」の留学生の名前は数カ所に書かれていたのをここでまとめたが、\*は重複して記録されたと思われる者である。蘇淑貞と蘇叔貞は同じ人物であり、馮葆真は全く同じ名前でもう一カ所に記録されていた。馮葆真の出身地、年齢等の記録は少し異なるが、入学年月は一致しているし、三崎裕子「東京女医学校・東京女子医学専

門学校中国人留学生名簿」を参考にして調べると、同一人物であると判断される。校名が違っているのは一九一二年に東京女医学校は東京女子医学専門学校に昇格したためである。

この調査表は手書きであり、学校順ではなく、同じ学校の学生が別々の所に書いているし、遺漏も少なくなく、誤記や重複が度々あるので、厳密な資料と言えないが、当時留学生の統計が少なかったので、重要な参考資料であることは間違いない。外務省記録「在本邦留学生関係雑件」第一巻所収の服部升子「在東京支那女子留学生ノ調査ニ関スル件」にも東京女子医学専門学校の留学生の名簿を挙げてあるが、それをも参考にして三崎裕子氏の名簿を補充すると、一九二七年までの留学生名簿は「表七」のようになる。それによれば、入学者は二二三名になり、それに基いて作った出身地統計表は「表八」の通りである。広東省の出身者が一番多くて二五名であり、次に福建省と浙江省のそれぞれ一八名、三番目は江蘇省の一六名であった。

#### (二) 留学生教育の開始と発展

『東京女子医科大学小史』は、「大正四年に閉鎖した東京女医学校は、その創立以来一五年を通じて一〇六名の

卒業生（女医）と外国人の聴講生二名を出している<sup>(11)</sup>と記している。その二名の聴講生は一九〇八年に入学した中国人留学生范荇芬と黄道玲である。

一九一二年七月三〇日に東京女子医学専門学校が新たに設立された。従来、五月であった入学期を四月に改めて入学者を募集し、九五名に入学を許可した。このほか東京女医学校の学生の中から入学資格のあるものを選び、試験によつて五六名を二年に編入し、ここに四年制の専門的な女子医学教育機関がはじめて日本に誕生した。入学資格は、高等女学校卒業者または専検合格者とし、外国人にも聴講生として門戸を開いた<sup>(12)</sup>。

東京女子医学専門学校は日本の唯一の女子高等医学教育機関であつたので、入学者が急速に増加した。一九一六年に一〇六名、一九一七年に一〇五名、一九一八年に一一三〇名、一九一九年に一三八名、一九二〇年に三〇〇名を超えた。入学を志望する留学生も次第に多くなつていった。「これは、女医によるアジア諸国の啓発を志す<sup>(13)</sup>吉岡校長の教育方針によるものであつた」。

『東京女子医科大学小史』には、留学生の卒業者について、何カ所かに記録してある。一九一七年の十一月に第二回の卒業式を挙行し、三六名の卒業生中二名は中国

人であつた。翌年に六〇名の卒業生中三名は中国人であり、一九一九年に四四名の卒業生四名が中国人であつた。一九一九年までに合計二四一名の卒業生が出たが、「……外国人で、入学資格の制限から、やむなく聴講生として終わった者が一四名ある」という<sup>(14)</sup>。

当時、外国人で専門学校程度以上の学校に入学を希望し、しかもこれらの学校に入学し得る資格のない者については、外国人特別入学に関する規程（台湾人、朝鮮人にも準用）により、別科、選科などのいわゆる特科生として入学させていたのであるが、中国政府から、なんらかの方法によりそれらのものを正科生として入学させる方法を講じてほしいという要望があつたので、文部省もそれを了承し、一九二一年五月九日、文部次官より専門学校所在地の地方長官および直轄学校長にたいし、左記の通牒を發するにいたつた。

中学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル学校ニ於ケル外国人及植民地人学生ニ対スル入学取扱方

従来外国人ニシテ大学及其予科、高等師範学校、女子高等師範学校、専門学校又ハ高等学校ニ入学シ得ヘキ規定上ノ資格（中学校又ハ高等女学校卒業、中学校第四学年修了若ハ之ト同等ノ学力アリト検定セ

ラレタル者等) ヲ有セサル者此等ノ学校ニ入学セントスル場合ニ於テハ之ヲ別科選科等所謂特科生トシテ入学セシムル例ナルモ外国人ニ関シテハ多少ノ特例ヲ設クル必要アリト考ヘラルルヲ以テ今後ハ各学校ニ於テ其ノ入学資格ニ相当スル試験(例ヘハ中学校卒業ヲ入学資格トスル学校ニ於テハ中学校卒業程度ノ試験ヲ行フカ如キ) ヲ行ヒ其ノ成績優良ナル合格者ハ之ヲ正科生トシテ入学セシメ差支ナキコトニ省議決定シタルニ依リ御承知相成度

従来支那政府ノ委託ニ依リ東京高等師範学校、第一高等学校、東京高等工業学校、山口高等商業学校及千葉医学専門学校ニ於テ收容セル留学生ニ就テハ従前ノ通り取扱フモノト御承知相成度尚朝鮮人及台湾人ニ関シテハ当分ノ内本文外国人ト同様ニ取扱フモノトス<sup>(15)</sup>

これに対し、日本医学専門学校長中原徳太郎は、在學生ならびに聴講生の取扱い、通牒の効力発生時期、卒業証書授与の三点について具体的な指示を求めた。その結果、文部省から次のような回答がなされた。

外国人及植民地人学生ノ取扱ニ関スル件回答

六月十日付伺標記ノ件ニ関シ回答ス

一、該通牒発令当時現ニ在学スル者ニツイテハ同様に試験ヲ行ヒ成績優秀ナル者ニハ現在学年ノ儘正科生ノ資格ヲ与ヘテ差支ナシ但シ進級試験ヲ経サル聴講生ニツイテハ前記試験ノ外更ニ進級試験ニ合格スルニ非レハ編入スルヲ得ス  
二、該通牒ノ効力ハ本省発令ノ日即大正十年五月九日ヨリ発生ス  
三、正科生トシテ卒業セシムル場合ハ卒業証書ヲ授与シテ差支ナシ<sup>(16)</sup>

これにより、東京女子医学専門学校でも、「従来、聴講生の取扱いをしていた留学生に試験を行ない、それぞれの学年に編入した。しかし、中国・台湾・朝鮮出身の受験性にたいしては、特別措置をとり、入学後とくに予備教育を施すこととした<sup>(17)</sup>」。この予備教育は、東京女子医学専門学校の特設予科であると考えられる。

この特設予科について、前述の外務省記録「学費支給支那留学生在学学校(東京市内及近郊) 歴訪報告」(一九二六年五月五日) という文献に次のように記録している。

(六) 予備教育ヲ完全ニセシメラシ度シ

特ニ女子ニ対シテハ其ノ必要アリト認メラルルト、

右ノ必要上東京女子医学専門学校ニアルテハ予科  
(本科四年予科一年) 一年ニ入学シタル者一名モ無  
クサリトテ医師ノ免許状ヲ与フル關係上十分ナル有  
資格者ヲ養成セサルヘカラサルニ付予科ニ入ル前ニ  
更ニ一年ノ特設予科ヲ開設シ現時支那学生八名ト朝  
鮮台湾学生トヲ收容セリ

右ハ一般科目ハ予科生ト同一ニ授業セシメ日本語及  
物理化学等ニ付特別ニ学習セシムルモノニシテ此特  
設予科修了者ヲ予科ニ入学セシムルコトトセリ之ハ  
支那女子学生殊ニ医術研究者ニ取りテノ一福音ナリ<sup>(18)</sup>  
東京女子医学専門学校の特設予科には、日本語の学習  
のためだけではなく、医学と関係ある物理や化学等の科  
目も設置された。特設予科の修了者は、予科に入学でき  
る。それは、中国人留学生に対して、基礎知識を補足す  
る所であり、東京女子医学専門学校に入学できる門戸で  
もある。特設予科の設立は、東京女子医学専門学校の積  
極的な留学生を受け入れる方針を表わした。

一九二九年四月十日、文部次官は、官專二百号をもつ  
て、従来、台湾人および朝鮮人の規定上の入学資格を有  
したいものを外国人と同様に取り扱って、専門学校、高  
等学校などに正科生として入学させていたのを廃止する

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

措置をとった。これは、台湾および朝鮮において、中等  
学校が普及発達し、その卒業生は正式に高等教育機関へ  
の入学資格を有することとなったからである。<sup>(19)</sup>

三崎裕子氏の調査によれば、東京女子医学専門学校の  
卒業生たちは帰国後女医になった人が多いという。同調  
査は、不明を含め、現在知りうるかぎりの資料による調  
査結果であるが、さらに調査が進めば、殆どすべて女医  
になっている可能性が極めて高いと推測される。

### 三、日本女子大学校

#### (一) 普通予科の設立と留学生

日本女子大学校は成瀬仁蔵らにより一九〇一年に設立  
された。学校の構成は家政学部、国文学部、英文学部と  
附属高等女学校であり、それに、英文予備科も設置され  
た。それは試験の結果本科生とするには力の不足した学  
生を收容したものである。一九〇三年から「普通豫科と  
英文豫科とに分れ、普通豫科は一カ年、英文豫科は二カ  
年とし、この制度は明治四十三年度まで行はれた<sup>(20)</sup>。予  
科の入学資格は「修業年限四カ年以上の官公私立高等女  
学校卒業生」等である。その普通予科の学科課程及び時  
間配当は「表九」のようである。

普通予科も「本科に入學せんと欲するも素養の不足なるものの為に」設立されたものであるが、学科課程は幅広く、時間配当も少なくなかった。一九〇七年に揚敢平

と康同荷という二名の中国人留学生が普通予科に入学した。<sup>(21)</sup>二名は翌年に普通予科を卒業し、本科の教育学部に進学した。教育学部は一九〇六年から設置されていたのである。一九〇八年にさらに二名が普通予科に入学し、一九〇九年にも一名が入学した。あわせて普通予科の五名の留学生が全員普通予科を卒業し、教育学部に進学した。五名の中の三名は卒業したが二名は途中で退学した。

## (二) 中国人卒業生の統計

石井洋子氏の調査により、一九一九年までの二六名の留学生のことが明らかになった。<sup>(22)</sup>それに、服部升子「在東京支那女子留学生ノ調査ニ関スル件」により、一九二五年の日本女子大学校の在学者が分かった。その在学者は「表十」の一〇名である。

日本女子大学校の学部は、最初に家政学部、国文学部、英文学部の三学部であったが、一九〇六年に教育学部が増設され、教育学部は一九一〇年に教育学部家政科に、一九一七年に師範家政学部と改称した。一九二一年に社会事業学部が設置され、「表十」から分かるように、留

学生にかなり人気があった。「補給」という文字は補給留学生のことであり、師範科と社会科にそれぞれ一名ずついた。

日本女子大学校の中国人留学生の全容はまだ分からないが、一九三七年までの卒業生の記録が興亜院『日本留学中華民人名調』にあるのを発見したので、それと石井洋子氏の名簿とあわせて、「表十一」のような卒業生統計表を作成した。

この統計表を見ると、二〇年代初まで留学生は教育学部(師範家政学部)に集中したが、一九二一年に社会学部が創設されて以来、数多くの留学生は社会学部に入学した。普通予科の二名の卒業生を含め、二三名の卒業生があるが、本科生は二一名であり、教育学部(師範家政学部)一一名、社会事業学部六名、英文学部三名、家政学部一名であった。その中の三名は普通予科卒業してから本科に入った者であるが、延べ人数の卒業生は二六名であった。出身地から見ると、彼女たちは殆ど中国南方の出身であり、広東省出身の人が一番多く、二三名卒業生中の一〇名であった。

おわりに

今までの研究により、中国人女子留学生を受け入れた主な学校の卒業生数は、「表十二」のように、明らかになつた。

ここから分かるように、官立三校の場合は、一九三七年までに入学生一二〇余名中の八一名は卒業した。それに対して、私立三校の場合は、入学生も卒業生もはるかに官立三校より多かつた。一九三七年までに卒業生は二〇九名（延べ人数）であり、一九四八年までに二八〇名（延べ人数）に上ることが分かる。民国初期に限れば、女子美術専門学校一四七名（延べ人数）中の七五名、東京女子医学専門学校一〇七名中の三〇名、日本女子大学校二六名（延べ人数）中の一四名の卒業生がこの時期に卒業したのである。私立三校の入学生は、日本女子大学校を明らかにしていないので、私立三校の総人数の統計ができないが、前述のように、現有の資料により、一九三七年までに少なくとも四六〇名を超えた。その中の二〇九名（延べ人数）が卒業生であるということは、卒業率が五割以下である。

専攻から見ると、官立三校が師範と蚕糸しかないが、

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

対照的に私立三校の幅は広く、師範科以外に社会科、医学、美術等の専攻があり、官立三校と互いに補う形になり、中国人女子日本留学の専攻的構造のバランスを取っていた。

民国初期の中国政府の女子高等・専門教育は「無」から「有」に至った時期であり、この時期の高等・専門教育を中心とする日本留学教育は重要な存在であった。女子留学生たちが日本の高等・専門学校で専攻した医学・師範・美術等の専門知識は、中国の近代教育、特に遅れた女子教育に対して、真に重要な知識であった。民国初期における数多くの女子留学生は、帰国後教師になって、中国の中・高等教育と専門教育に貢献した。私立三校は、中国人女子留学生の教育に関して重要な役割の一翼を担っていた。

私立三校はそれぞれの専門分野の教育機関であり、大勢の留学生を育てたが、ここでとくに取り上げなければならないのは、東京女子医学専門学校である。

アメリカ留学により中国人の西洋医学の女医が誕生したが、その後の女医の養成については日本留学が重要な位置を占めている。二〇世紀前後から始まった日本留学ブームの際に医学を目指した女子留学生が少なくなかつ

た。清末には日本の医学校に入学できる教育水準を有する者が少なかったが、状況が変化してきたのである。民国初期に入ると、東京女子医学専門学校は、女子留学生たちの目指す主な学校の一つになり、民国政府の官費支給学校であった。一〇年代に東京女子医学専門学校は既に二〇名の医学卒業生を送り出した。最初の卒業生たちは、中国に戻って開業した人が少なくなかった。民国期の日本留学は中国の女医養成の重要な手段であったことが理解できる。

留学生たちの回想録のほか、他の様々の資料の記録を見ても、東京女子医学専門学校の留学生教育は非常に厳しく行われた。それに、この学校は、民国初期から日本語だけではなく、物理、化学等を留学生に特別に学習させる特設予科を開設した。中国女子医学教育の面から見ても、東京女子医学専門学校における中国人留学生の教育は高く評価されるべきものと思われる。

注

- (1) 三崎裕子「東京女医校・東京女子医学専門学校中国人留学生名簿——一九〇八年から一九四二年まで——」『辛亥革命研究』八、一九八八年、六三―七二頁。
- (2) 女子美術大学『女子美術大学八十年史』女子美術大学、一九八〇年、四頁。

- (3) 前掲『女子美術大学八十年史』九〇頁。
- (4) 「女子美術専門学校規則」一九三七年、前掲『女子美術大学八十年史』五二二頁。
- (5) 前掲『女子美術大学八十年史』四二頁。
- (6) 前掲『女子美術大学八十年史』四九頁。
- (7) 『東京女子高等師範学校一覽』明治四十二年度（一九〇九年）（一）、一一一頁。
- (8) 一九九六年六月十五日付、陶虞孫が口述し、娘の陶恵が筆記した筆者への手紙。
- (9) 三崎前掲論文、六三―七二頁。
- (10) 三崎前掲論文六三頁。
- (11) 東京女子医科大学『東京女子医科大学小史——六十五年の歩み——』中央公論事業出版、一九六六年、一〇三頁。
- (12) 前掲『東京女子医科大学小史』一〇五頁。
- (13) 前掲『東京女子医科大学小史』一〇九頁。
- (14) 前掲『東京女子医科大学小史』一〇九頁。
- (15) 前掲『東京女子医科大学小史』一〇九―一一〇頁。
- (16) 前掲『東京女子医科大学小史』一一〇頁。
- (17) 前掲『東京女子医科大学小史』一一〇―一一一頁。
- (18) 外務省記録『在本邦留学生関係雑件』第一卷。
- (19) 前掲『東京女子医科大学小史』一一一頁。
- (20) 中村正雄編『日本女子大学四十年史』日本女子大学校、一九四一年、六九頁。
- (21) 石井洋子「中国女子留学生名簿——一九〇一―一九一九年——」『辛亥革命研究』二、一九八三年、六三頁。
- (22) 石井前掲論文六三―六五頁。

「表一」 私立女子美術学校（女子美術学校） 中国人留学生入学統計表（一九〇三年～一九二九年）

（単位：人）

年度	学科		日本画	西洋画	刺繡	編物	造花	裁縫不明	合計 (再入学者数)
	普高	本選							
一九〇三									二
一九〇四									一
一九〇五									二
一九〇六									一
一九〇七									二
一九〇八									一
一九〇九									三
一九一〇									五
一九一一									四
一九一二									〇
一九一三									〇
一九一四									四
一九一五									五
一九一六									〇
一九一七									八
一九一八									五
一九一九									二
一九二〇									五
一九二一									六
一九二二									九
一九二三									〇
一九二四									一
一九二五									一
一九二六									九
一九二七									〇
一九二八									一
一九二九									〇
一九三〇									一
一九三一									二
一九三二									一
一九三三									〇
一九三四									一
一九三五									一
一九三六									八

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

合計	不 明	一九二七	一九二八	一九二九
一一一				
六九	二			
	五七	一		
	六二	(五)		
	二二	(六?)		
八六	五		四	
	六一		二 四 四	
	一四		一 一	
	六			
二八	一七	一		
		(九?)		
	一一		三	
五六	三三		一 三	
	一			
	二二		三 五	
一一五二(四二)				
		二 二	一六(三)	一三(二)

注：本：本科。選：選科。高：高等科。研：研究科。速：速成科。別：別科。普：普通科。師：師範科。  
 出典：私立女子美術学校・女子美術学校『学籍簿』より筆者作成。



「表三」 私立女子美術学校(女子美術学校) 中国人留学生卒業者統計表 (一九〇七年—一九三〇年)

(單位：人)

年度	学科		日本画	西洋画	刺繡	編物	造花	裁縫	合計 (複數卒業者)
	普高	本選							
一九〇七									一
一九〇八									三
一九〇九									二
一九一〇									八
一九一一									二
一九一二									一
一九一三									二
一九一四									二
一九一五									二
一九一六									二
一九一七									二
一九一八									一
一九一九									三
一九二〇									三
一九二一									五
一九二二									四
一九二三									四
一九二四									八
一九二五									七
一九二六									一
一九二七									八
一九二八									五
一九二九									六
一九三〇									二
不明									二
合計									一一〇(一五)

注：本：本科。選：選科。高：高等科。研：研究科。速：速成科。別：別科。普：普通科。師範：師範科。  
 出典：私立女子美術学校・女子美術学校「学籍簿」より筆者作成。



「表五」 私立女子美術学校・女子美術学校・女子美術専門学校中国人留学生出身地統計表 (一九〇三年—一九四六年)

(单位：人)

年度	出身地
一九〇三	湖北 一
一九〇四	蘇江 一
一九〇五	江浙 一
一九〇六	福建 一
一九〇七	東廣 一
一九〇八	州貴 一
一九〇九	徽安 一
一九一〇	北河 一
一九一一	南湖 一
一九一二	東山 一
一九一三	西江 一
一九一四	隸直 一
一九一五	川四 一
一九一六	西陝 二
一九一七	湾台 一
一九一八	南雲 一
一九一九	江龍黑 一
一九二〇	天奉 一
一九二一	西山 二
一九二二	吉林 二
一九二三	州東閩 一
一九二四	西廣 一
一九二五	州錦 一
一九二六	京北 一
一九二七	明不 一
一九二八	計 合
一九二九	三六八八七二四〇一八九九二四〇四三九一
一九三〇	一三〇二二
一九三一	一
一九三二	一
一九三三	一
一九三四	一
一九三五	一
一九三六	一



「表六」一九一四年の東京女子医学専門学校在学留学生名簿  
東京女医学校

氏名	原籍地	年齢	官費私費別	入学年月日
錢旭琴	江蘇省蘇州府	二二	官費	明治四十三年二月
蘇叔貞	広東省広州府	二四	官費	明治四十二年五月
林演存	広東省平遠県	三一	官費	明治四十四年四月
鄭式度	広東省雷州府	二五	官費	明治四十三年九月
熊松雪	江蘇省南通県	二二	官費	明治四十二年五月
朱 徽	江蘇省宝山県	二八	官費	大正元年九月
趙元碩	雲南省内理府	二二	半官	大正二年四月
揚雪楨	江蘇省貫陽県	二二	官費	大正二年九月
戴 啓	浙江省永嘉県	一九	官費	大正二年九月
鄭企因	浙江省黄岩県	二一	官費	大正二年三月
馮葆真	浙江省武進県	二二	私費	大正二年四月
錢雲英	浙江省寧波府	光緒一九年生	官費	明治四十四年四月
吳蕭淑	直隸省天津	一九	私費	大正二年九月
許劍雲	広東省香山	二〇	官費	大正二年九月
楊步偉	安徽省石懷県	二三	私費	大正二年九月
楊泌芳	安徽省石懷県	二五	私費	大正二年九月
*馮葆真	江蘇省蘇州府	二五	官費	大正二年四月
*蘇淑貞	広東省広州府	二六	官費	明治四十二年五月
謝 俊	江蘇省	二二	私費	大正二年九月
許劍槐	広東省	一九	官費	大正二年十月
何叔儀	広東省□州府	光緒二十四年生	私費	大正二年十月

女子医学専門学校

注：□は、判明不能文字。

警視庁「支那留学生調査表」大正三年一月十日現在（外務省記録）『在本邦清国留学生関係雑纂 雑ノ部』所収より筆者作成。

「表七」 東京女医学校・東京女子医学専門学校中国人留学生名簿（一九〇八年～一九二七年）

番号	入学年	氏名	出身地	出身校	費用	卒業年	卒業後	出典
〇一	(一九〇八)	范荇芬	安徽省			一九二二	開業（一九二四）、北京、上海法界	a
〇二	(一九〇八)	黃道玲	広東省南海県			一九二二	研修（一九一五付属病院）、監獄医（北京）、開業（一九一八北京、一九三三広州市、一九四三香港）	a
〇三	一九〇九	方 穎	福建省侯官県					a
〇四	一九〇九	熊松雪	江蘇省常州県		官			a
〇五	一九〇九	蘇淑貞	広東省広州府		官	一九一五		a
〇六	一九一〇	劉覚榮	広東省香山県					a
〇七	一九一〇	潘世英	安徽省桐城県					a
〇八	一九一〇	林演存	広東省嘉應県		官	一九一五		a
〇九	一九一〇	蘇 貞	広東省広州府					a
一〇	一九一〇	黃目珍	湖南省長沙府					a
一一	一九一〇	錢旭琴	江蘇省蘇州府		官			a
一二	一九一〇	陳蘭子	湖北省武昌府					a
一三	一九一〇	唐慧英	江蘇省無錫県					a
一四	一九一一	王長寿	江西省吉安県					a
*一五	一九一一	鄭式度	広東省雷州府		官			b
〇一六	一九一二	錢雲英	浙江省寧波府		官	一九一九	開業（一九三三杭州、雲英医院）	a
〇一七	一九一二	朱 徽	江蘇省宝山県		官	一九一七	森仁医院（一九二〇北京）、北京赤十字病院（一九二七）	a
*一八	一九一三	趙元碩	雲南省大理府		半官			b
*一九	一九一三	戴 啓	浙江省永嘉県		官			b
*二〇	一九一三	吳蕭淑	直隸省天津		私			b
*二一	一九一三	許劍雲	広東省香山		官			b
*二二	一九一三	許劍槐	広東省		官			b
*二三	一九一三	揚泌芳	安徽省石懷県		私			b
*二四	一九一三	謝 俊	江蘇省		私			b
*二五	一九一三	何叔儀	広東省□州府		私			b
二六	(一九一三)	鄭子英				一九一九		a

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

五二	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七	
一九一八	一九一八	(一九一七)	(一九一七)	一九一六	一九一五	一九一五	一九一五	一九一五	一九一五	一九一五	一九一四	一九一四	一九一四	一九一四	(一九一三)	(一九一三)	(一九一三)	一九一四?	一九一四?	一九一四?	一九一四?	(一九一三)	(一九一三)	(一九一三)	(一九一三)	
道敬	林瑜	宋福信	熊学礼	胡育英	李雲英	王和容	馬仲容	徐春芳	蘇儀貞	顧雲	曾秀德	黃誘環	朱松子	周宝蓮	楊雪楨	范新莞	黃則瑜	馮啓亞	吳蓮貞	楊步偉	李韻嫻	馮葆真	何孝鈺	鄭朴貞	鄭企因	
			江西省豐城縣	陝西省榆林縣		福建省龍溪縣			廣東省順德原		河南省	廣東省	廣東省南海縣		江蘇省		福建省南安縣		浙江省	安徽省	河北省		江蘇省武進縣	福建省閩侯縣	浙江省黃岩縣	
																				上海中西女塾中退						
													官	官						官	官	官			官	
			一九三三	一九三三					一九二〇				一九二六	一九一九			一九一九	一九一八	一九一八	一九一八	一九一八	一九一七	一九一九	一九一九	一九一九	
			助產學校經營 (一九三四、江西省)	同仁會病院婦人科 (一九二七)					開業? (一九三三、廣東、長沙) 平教會 廣東省治安維持會衛生課主任 (一九三九)				開業 (一九三八北京西單大街一六〇、松子醫院)				福州福新街兆培醫院產婦主任 (一九三七)	研修 (一九二四泉橋病院內科)	開業 (一九一九北京、森仁醫院)	開業 (一九一九北京、森仁醫院)	開業 (一九一九北京、森仁醫院)	北京南長街、龍敦敏微生物學研究所員	北京妓女檢治所主任 (一九四〇)	北平 (一九三四)	奉天龍光醫院 (一九三三)、北京同和醫院 (一九三九)	東京 (一九三三、一九三六)
a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	
			b						f				c	b	b	f	f	f	f	e	e	b	a	a	b	

五三	一九二〇	楊翠珠	江蘇省丹徒縣	官	一九二五	上海法租界(一九三三)	a
五四	一九二〇	王世婉	福建省福州	官	一九二六	杭州市伝染病院(一九三九)、「維新」政府杭州市立病院	a
五五	一九二〇	施秉慧	福建省福州	官	一九二六	院長(一九四〇)、難民救済活動、杭州市長何瓚夫人	a
五六	一九二〇	胡珮芬	浙江省太平縣	官	一九二七	付属病院産婦人科(一九二七)、杭州(一九三六)、上海(一九三八)	a
◎五七	一九二〇	顧竹筠	浙江省	官	一九二七	大連病院(一九二八)、黒龍江省立病院(一九三三)、	a
◎五八	一九二〇	范新愨	湖南省	官	一九二六	吉林省私立助産学校(一九三八)	a
◎五九	一九二二?	盧士煥	奉天省	私	一九二八	東京市(一九二八)、開業(厦門、小棠診療所)	a
六〇	一九二二?	盧小棠	福建省思明縣	官	一九二九	付属病院眼科(一九三〇)、深川病院内科(一九三二)	a
六一	一九二三	蕭怡僊	湖北省沔陽縣	官文選	一九三〇	東京赤十字産院産科(一九三三)、泉橋病院婦人科(一九三三)、武漢市第五病院婦人科(一九五二)一九五五	a
◎六二	一九二四	鄭推先	浙江省紹興縣	官文補	一九三一	実習(一九三一帝大病院)、浙江省紹興(一九三四)、太原協濟医院(一九三五)	a
◎六三	一九二五	修慧媛	雲南省昆明縣	官	一九三一	長崎医大内科(一九三二)	a
◎六四	一九二五	戚清瑾	雲南省昆明縣	官	一九三一		a
◎六五	一九二五	劉漢琛	安徽省	私	一九三一		a
六六	(一九二七)	高耐玉	浙江省杭州府	官	一九三一		a
六七	(一九二七)	王蘭分	浙江省平陽縣	官	一九三一		a

注：出典aを中心に出典b、fを補足資料として筆者作成。

\*は、筆者が出典aに掲載されていない出典bより補充した者。

◎は、出典aに筆者は出典b、fを参考にし補充した処がある欄。

( )は、三崎裕子氏が推測する入学年度。

?は、筆者が推測する入学年度。

□は、判明不能文字。

出典：a：三崎裕子「東京女医学校・東京女子医学専門学校中国人留学生名簿——一九〇八年から一九四二年まで——」(『辛亥革命研究』八、一九八八年)。

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

- b：警視庁『支那留学生調査表』大正三年一月一〇日（外務省記録『在本邦清国留学生関係雑纂、雑ノ部』第二卷所収）。
- c：日華学会『東京在住中華民国留学生名簿』大正一四年一月現在（外務省記録『在本邦留学生関係雑件』第一卷所収）。
- d：「在東京支那女子留學生ノ調査ニ關スル件」大正一四年五月末日現在（外務省記録『在本邦留学生関係雑件』第一卷所収）。
- e：楊步偉『一個女人的自傳』台北、傳記文学出版社、一九七九年。
- f：興亜院『日本留學中華民国人名調』一九四〇年。
- 原典：aは、fと(a)～(e)を原典としている。
- (a)：『東京女医学校入學生登録簿』（一九〇〇年～一九一三年）。
- (b)：『東京女子医学専門学校卒業生台帳』（一九一四年～一九四六年）。
- (c)：『至誠会會員名簿』（一九八〇年～一九八六年）。
- (d)：『女医界』（東京女子医学専門学校校友会・同窓会機関誌）。
- (e)：日華学会『留日學生名簿』（一九三一年、一九三六年～一九四二年）。

「表八」の1 東京女子医学専門学校（東京女医学校）中国人留学生出身地統計表（一九〇八年～一九四二年）（単位：人）

年度	出身地
一九〇八	東 広
一九〇九	東 広
一九一〇	東 広
一九一一	東 広
一九一二	東 広
一九一三	東 広
一九一四	東 広
一九一五	東 広
一九一六	東 広
一九一七	東 広
一九一八	東 広
一九一九	東 広
一九二〇	東 広
一九二一	東 広
一九二二	東 広
一九二三	東 広
一九二四	東 広
一九二五	東 広
一九二六	東 広
一九二七	東 広
一九二八	東 広
一九二九	東 広
一九三〇	東 広
一九三一	東 広
一九三二	東 広
一九三三	東 広
一九三四	東 広
	徽 安
	蘇 江
	建 福
	南 湖
	北 湖
	西 江
	江 浙
	北 河
	南 雲
	隸 直
	南 河
	西 陝
	天 奉
	寧 遼
	遠 綏
	東 山
	州 貴
	西 山
	連 大
	順 旅
	明 不
	計 合

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

合 計	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八	一九三九	一九四〇	一九四一	一九四二
二五	一	二	三	一	二	二	一	二
五								
一六	一	二						
一八	一		一	四	二			
五								一
四								二
一一								一 一
一八	一	二						一 三 一
一三	一	三	二		一	二		一
八								一
一								
二								一
一								
一								
四								一
一								
五	一	一						二 二
二								一 一
二								一
一								一
一								一
一七	一							一 二
一六一	七	一	三	三	一	一	三	一 六 〇

「表八」の2 「満洲国」中国人留学生出身地統計表

(一九三二)〜(一九四二)年

合 計	一九三二	一九三三	一九三四	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八	一九三九	一九四〇	一九四一	一九四二
一一	林	吉									
一一	天	奉									
一	江	濱									
二	東	関									
一	江	龍									
六	寧	遼									
一	河	熱									
一	濱	尔哈									
一	江	龍黑									
二六	明	不									
六一	計	合									

出典：a、bより筆者作成。

a：三崎前掲論文。

b：本論文「表七」。

原典：aはを原典としている。

(a)：『東京女医学校入学生登録簿』(一九〇〇年〜一九三三年)。

(b)：『東京女子医学専門学校卒業生台帳』(一九一四年〜一九四六年)。

(c)：『至誠会会員名簿』(一九八〇年・一九八六年)。

(d)：『女医界』(東京女子医学専門学校校友会・同窓会機関誌)。

(e)：日華学会学報部『留日学生名簿』(一九三一年度、一九三六年度〜一九四二年度)。

(f)：興亜院『日本留学中華人名調』一九四〇年。

「表九」日本女子大学校普通予科の学科課程及び時間配当

普通予科

学 科	教 授 時 間	
論理		
国語	一	
漢文	九	
英語	五	
歴史	二	
理科	三	
数学	二	
体操	三	
裁縫	(三)	随意科となす ことを得
計	二八	

出典：日本女子大学校『日本女子大学校四十年史』一九四一年、九七頁より筆者作成。

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

「表十」一九二五年の日本女子大学在学留学生

姓 名	学 科 と 学 年	出 身 省	住 所
翁 侃	師範科四年	福 建	大和町女子寄宿舎
彭敦礼	師範科四年	江 西	市外高田町上り屋敷一二二七
潘白山	社会科三年	湖 南	白山女子寄宿舎
杜貴貞	社会科三年	吉 林	小石川区雜司ヶ谷一七
張兆喬	社会科二年	広 東	市外池袋一一一五、村上政喜方
楊趙丕頤	社会科二年	雲 南	府下千駄ヶ谷四五三
邱毓芳	社会科一年	奉 天	小石川大塚坂下町一二三
林雪筠	社会科一年	広 東	市外巢鴨宮下町一六五三
孫惠香	社会科一年	大 連	日本女子大学校寄宿舎豊明寮
陳永貞	社会科一年	福 建	白山女子寄宿舎

出典：服部升子「在東京支那女子留学生ノ調査ニ関スル件」一九二五年五月末現在（外務省記録）在本邦留学生関係雑件』第一卷所収）より筆者作成。

「表十一」日本女子大学校中国人留学生卒業者名簿

姓名	卒業年度	専攻科目	原籍	姓名	卒業年度	専攻科目	原籍
康同荷	一九〇八	普通予科	広東、広州	翁侃	一九二五	師範家政学部	福建、福州
楊敢平	一九〇八	普通予科	広東、広州	彭敦礼	一九二五	師範家政学部	江西、萍郷
陳夢飛	一九一三	教育学部	広東、瓊山	潘白山	一九二六	社会事業学部	湖南
馬君幹	一九〇九	普通予科	安徽、安慶	張兆喬	一九二七	社会事業学部	広東、香山
黄国巽	一九一〇	普通予科	湖南、長沙	楊趙丕頤	一九二七	社会事業学部	雲南、大理
陳德馨	一九一四	教育学部	浙江、山陰	夏朱明之	一九三二	社会事業学部	雲南、大理
盧桂卿	一九一〇	教育学部	山西、朔平	林景晴	一九三二	社会事業学部	広東、新会
程孝福	一九一六	英文学部	江西、宜黄	郭劍兒	一九三五	児童保全科	広東、南海
張来儀	一九一七	英文学部	江西、南昌	黄薔薇	一九三七	家政学部第三類	広東、臺山
朱珠英	一九一七	師範家政学部	福建、福州				
薩本祥	一九一九	師範家政学部	福建、福州				
李雪英	一九二〇	師範家政学部	広東、番禺				
張佩暄	一九二三	師範家政学部	広東、番禺				
黄少虞	一九二四	社会事業学部	広東、広州				
		児童保全科					

注：a、bより筆者作成。

出典：a：石井洋子「中国女子留学生名簿——一九〇一—一九一九年——」『辛亥革命研究』二、一九八三年、六三—六五頁。  
 b：興亜院政務部「日本留学中華民国人名調」一九四〇年、七五七—七五九頁。

「表十二」 中国人女子留学生主要受け入れ校卒業者統計表（一九〇四年～一九四九年）

時期		清 末		民 国 初 期	
卒業年度	修業年限	※学校名			
		三年・本科四年	東京女子高等師範学校	保実一年・専修	三三
本科四年	奈良女子高等師範学校	特設予科一年	二	二	二
二年	東京高等蚕糸学校	(教婦科)	二	二	二
速成半年	*実践女学校	一～三年	二	二	二
速成半年	*女子美術学校	一～四年	二	二	二
本科四年	東京女子医学専門学校	予科一年	二	二	二
本科三年	日本女子大学校	予科一年	二	二	二
合 計			二	二	二

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

備 考	国民 後 期				国民 中 期																				
	合 計	不 明	一 九 四 九	一 九 四 八	一 九 四 七	一 九 四 六	一 九 四 五	一 九 四 四	一 九 四 三	一 九 四 二	一 九 四 一	一 九 四 〇	一 九 三 九	一 九 三 八	一 九 三 七	一 九 三 六	一 九 三 五	一 九 三 四	一 九 三 三	一 九 三 二	一 九 三 一	一 九 三 〇	一 九 二 九	一 九 二 八	
外に、奈良女高師の特設予科の修了者は九三名であり、日本女子大学の普通予科の修了者は五名である。	四二		明			不									一	二				四	二		四	一	
	五九		二	三	一		二	七	七	五	二	二	一	二	一	七	一	五	一	五	二	二	一		
	一四			明					不						一										
	九八	一		明					不																
	一四七	二						一	一	三	五		三	七	三	四	一			八	三	六	五		
	一〇七				一	三	四	五	三	一	五	二	二	六	六	一		二	二	一	一	一	一	一	一
	二二		明						不						一	一				二					
	四八八	三	二	三	一	一	五	二	一	三	九	一	六	二	三	七	六	一	〇	六	三	三	三	六	二

注：※の校名は一九二七年現在のものである。  
 \*の実践女学校、女子美術学校、二校の人数は延べ人数である。  
 出典：a、kより筆者作成。  
 a：加藤直子「調査研究 東京女子高等師範学校と中国人女子留学生」の「東京女子高等師範学校中国人留学生名簿」(「お茶の水女子大学女

性文化資料館報』六、一九八五年、八三―八五頁。

b: 『東京女子高等師範学校一覽』各年度版。

c: 『東京女高師卒業生名簿』。

d: 奈良女子大学学生課「中国人留学生の卒業者名簿」。

e: 銭青「奈良の憶い出」(『奈良女子大学八十年史』一九八九年、所収)。

f: 興亜院「日本留学中華民国人名調」一九四〇年。

g: 『東京高等蚕糸学校卒業者一覽』各年度版。

h: 石井洋子「辛亥革命期の留日女子学生」の表2「実践女学校中国人卒業生数(一九〇四年―一九二〇年)」(『史論』三六、一九八三年、三六頁)。

i: 私立女子美術学校・女子美術学校・女子美術専門学校「学籍簿」。

j: 三崎裕子「東京女医学校・東京女子医学専門学校中国人留学生名簿―一九〇八から一九四二年まで―」(『辛亥革命研究』八、一九八八年)。

k: 石井洋子「中国女子留学生名簿―一九〇一年―一九一九年―」(『辛亥革命研究』二、一九八三年)。

原典: aは、b、fと(a)と(e)を原典としている。加藤直子の記述に従い、ここに掲載する。

(a): 『東京女子高等師範学校』日誌、各年度版。

(b): 『東京女子高等師範学校』年報、各年度版。

(c): 『外務省記録』在本邦清国留學生關係雜纂 雜ノ部。

(d): 『外務省記録』在本邦清国留學生關係雜件 支那留學生ノ部。

(e): 『日華学会学報部』留日学生名簿「昭和一一―一四、一七年版」。

hは、(f)、(g)を原典としている。石井洋子の記述に従い、ここに掲載する。

(f): 『実践女学校』支那留學生証書台帳(明治三七―四四年)。

(g): 『実践女学校』卒業証書台帳(明治四三―大正一五年)。

jは、f、(h)と(l)を原典としている。三崎裕子の記述に従い、ここに掲載する。

(h): 『東京女医学校入学生登録簿』(一九〇〇年―一九一三年)。

(i): 『東京女子医学専門学校卒業生台帳』(一九一四年―一九四六年)。

(j): 『至誠会会員名簿』(一九八〇年・一九八六年)。

(k): 『女医界』(東京女子医学専門学校校友会・同窓会機関誌)。

(l): 『留日学生名簿』日華学会学報部、昭和一一―一四、一七年版。

kは、b、i、(f)(g)(h)(j)(k)(m)を原典としている。

(m): 『日本女子大学学校学籍簿』。

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

「附録」私立女子美術学校・女子美術学校・女子美術専門学校中国人留学生名簿(一九〇三年—一九四八年)

氏名	出身省	生年月日	入学年齢	出身学校	入学年月日	専攻学科	卒業・退学年月日
王蓮	湖北省施南府		(二四)		一九〇三、二	撰科普通科西洋画	一九〇六、三、五 退学(帰国)
曹汝錦	江蘇省上海県		(二五)		一九〇三、四	〃	一九〇五、三、四 〃 (都合)
董英	浙江省杭州府		(二七)		一九〇四、六、三	〃	一九〇六、四、三 〃 (病气)
盧彬質	湖北省		(二二)		一九〇五、四、七	撰科普通科	一九〇五、一〇、一八 退学(都合)
張競新	浙江省杭州府	光六、二	一五	實踐女学校	一九〇五、六、一六	西洋画科撰科普通科	一九〇八、七 〃 (帰国)
劉琬	福建省福州府	光一〇、七、七 又光二、七、六	二二		一九〇六、三、三三	〃	一九〇八、七 〃
陳兆芳	江蘇省淮南府	一三、四、一〇			一九〇六、九、二八	〃	一九〇七、五、三〇 〃
陳祖琇	湖北省荆州府	一八、六		東洋美術学校卒	一九〇六、四、二	〃	一九〇六、六、二九 〃
鄭韻箴	福建省福州府	光一五、三	一六	實踐女学校	一九〇六、三、三三	編物科撰科普通科	一九〇六、三、三〇 〃
張晋慧	江蘇省	一八八、三		曾テ本国ニ在テ読書修学ビ	一九〇六、四、二	〃	一九〇八、三 卒業
陳淑子	広東省番禺県	一六、九		広東省女子学校卒	一九〇六、四、二	〃	一九〇六、六、三〇 退学(帰国)
李蕓	湖北省蘄華	四、一〇			一九〇六、四、一七	〃	一九〇六、六、二九 〃
方萌	福建省福州府	光一三、七、二五	一八	實踐女学校	一九〇六、三、二七	刺繡科撰科普通科	一九〇八、三 卒業
卞璠	江蘇省鎮江府	光九、二、二三	二三	茨城県稲敷郡生板村小学校	一九〇六、一〇、三	編物科撰科普通科	一九〇八、一 退学(除名)
盧瑛	湖北省鄖陽府	光四、五	二八	日本美術学校	一九〇六、三、四	〃	〃
何琴	湖北省漢陽府	二六			一九〇七、二、四	西洋画科撰科普通科	〃
金相	貴州省貴陽府	一三、五、四		四川省女学校・實踐女学校	一九〇七、三、七	〃	〃
湯淋	江蘇省蘇州府	光三、八、三	一九	上海務本女塾普通科卒	一九〇七、四、九	編物科撰科普通科	一九〇九、三、二五 卒業
鮑桂娥	広東省香山県	二二、五、三〇		横浜市大同学校卒	一九〇七、三	編物科撰科普通科	一九〇九、三、二五 卒業
吳真	広東省香山県	二三、二		横浜市大同学校卒	一九〇七、五	編物科速成科	一九〇七、二 修業
范瓊	江蘇省昭文県	二三、一、二〇		實踐女学校	一九〇七、三	刺繡科撰科普通科	一九〇七、二 卒業
朱華	江蘇省南匯県	光三、七、二七	一九	清国留学生会館日語講習会	一九〇七、四、四	造花科撰科普通科	一九〇七、七 〃
馮賓	江蘇省	光一〇、二、二四	二二		一九〇七、四、七	〃	一九〇七、四、八 〃
					一九〇七、四、八		一九〇八、一 退学(除名)

林雲書	福建省福州府	二六、二、一	家塾	一九〇七、四、二	刺繡科撰科普通科	一九〇七、四、二	退学(都合)
馮擷英	浙江省杭州府	光九、二、三	官立杭州女学校卒	一九〇七、三、三	西洋画科撰科普通科	一九〇七、三、三	卒業
朱斐	浙江省常州府	光七、二、六	広東柔嘉女塾卒	一九〇七、九	西洋画科本科普通科	一九〇七、九	卒業
朱任	〃	光六、三、三〇	〃	〃	造花科本科普通科	〃	〃
李試賢	安徽省南京	光三、一、一	〃	一九〇七、九、二	編物科撰科普通科	一九〇七、九、二	退学
譚佩纓	広東省広州府	三、一〇	広東女学会	一九〇七、一〇、三	刺繡科撰科普通科	一九〇七、一〇、三	退学(都合)
陳媛卿	〃	一〇、一、三	横浜留東女学校	一九〇七、一〇、三	造花科撰科普通科	一九〇七、一〇、三	下記へ転科
陳懿卿	広東省広州府	一六、五、二	横浜留東女学校	一九〇七、一〇、三	編物科速成科	一九〇七、一〇、三	卒業
王端竹	江蘇省震澤県	光九、一	麗澤女子学校	一九〇七、二、二	刺繡科撰科普通科	一九〇七、二、二	退学(帰国)
王英九	江蘇省呉江県	光八、一〇	〃	一九〇七、二、三	西洋画撰科普通科	一九〇七、二、三	卒業
錢旭琴	江蘇省震澤県	光八、一	〃	一九〇七、二、三	西洋画撰科普通科	一九〇七、二、三	退学(転校)
繆賓児	広東省広州府	二〇、五、二	家塾	一九〇八、四、八	日本画科撰科普通科	一九〇八、四、八	〃
陳惠馨	広東省広州府	光七、三、二四	広東女学会	一九〇八、四、三	編物科撰科普通科	一九〇八、四、三	卒業
蔡麗如	〃	〃	成志小学校	一九〇八、四	〃	一九〇八、四	〃
譚紉秋	広東省肇慶府	光七、二、八	農工商部官立女子繡工科	一九〇八、五	造花科撰科普通科	一九〇八、五	退学(帰国)
黄元史	広東省広州府	〃	東京蚕業講習所女子製糸部	〃	西洋画科撰科普通科	一九〇八、五	〃
夏循恂	浙江省	〃	東京留東女学会	一九〇八、四	刺繡科撰科普通科	一九〇八、四	卒業
余銘盤	河北省北京	〃	大成女学館女子高等師範学校	〃	〃	一九〇八、四	〃
葉若萱	福建省福州府	三、一、八	福建省公立女学校卒	一九〇八、五、一八	編物科撰科普通科	一九〇八、五、一八	退学(帰国)
葉慧哲	広東省惠州府	三、四	日本女子大学校教育部	一九〇九、四、一〇	日本画科撰科高等科	一九〇九、四、一〇	卒業
倪景福	福建省福州府	〃	実践女学校	一九〇九、四、三	西洋画科撰科普通科	一九〇九、四、三	卒業
何香凝	広東省広州府	光八、四、七	〃	一九〇九、九	西洋画科撰科高等科	一九〇九、九	卒業
包振玉	浙江省湖州府	光一〇、三、一	〃	一九〇九、一〇	編物科撰科普通科	一九〇九、一〇	〃
孫亜馨	浙江省寧波府	光一〇、一、三〇	〃	一九〇九、四、二六	西洋画科撰科普通科	一九〇九、四、二六	〃
李宜	湖南省武岡州	又は光二五、八、三	福州女子職業学校	一九〇九、四、一〇	編物科撰科普通科	一九〇九、四、一〇	〃
陳静怡	広東省広州府	光四、三、九	東京音楽院	一九〇九、四、一〇	編物科撰科普通科	一九〇九、四、一〇	〃

譚佩纓	廣東省肇慶府	明八、一、一	二四	福州女子職業學校	一九〇九、四、三	刺繡科撰科普通科	一九二、三 卒業
郭和平	福建省福州府	光三、四、六	二三	奎文高等女子美術學校	一九〇九、八、三	西洋画科撰科普通科	一九二、三 卒業
馬淑和	山東省	光〇、六	一五	實踐女學校	一九〇九、九、一〇	造花科撰科普通科	一九二、三 卒業
張志俊	浙江省湖州府	光八、四、六	一七	九江女學校	一九〇、四	刺繡科撰科普通科	下記へ転科
黃坤	江西省九江府	光八、四、六	一七	九江女學校	一九〇、四	造花科撰科普通科	一九三、三 卒業
劉瑛	直隸省天津府	光五、〇、八	二〇	天津官立第三女學校	一九〇、〇、二	西洋画科撰科普通科	下記へ転科
章璞	浙江省湖州府	二六、三、二〇		葆靈書院	一九〇、二、二六	編物科撰科普通科	下記へ転科
祝佩茗	江蘇省無錫縣	二六			一九〇、三、一	西洋画科撰科普通科	一九三、九 退学(帰国)
韓靜如	直隸省天津府	二三、六		天津公立女學校	一九〇、三、一	編物科撰科普通科	一九三、一 卒業
陳澆壽葵	浙江省湖州府	二〇、四、三		吳興女學校卒	一九一、五	西洋画科撰科普通科	
陳沈文華	〃	一九一〇、八		南京啓秀女學校卒	一九一、九	西洋画科撰科普通科	
胡懿瓊	湖南省長沙縣	光四、二、三	二三		一九一、〇、一八	日本画科撰科普通科	一九五、三 卒業
蕭尉英	湖南省	光八、四、一六	二〇	周南女子教師師範科	一九三、四、三	西洋画科撰科普通科	一九七、三、三 〃
劉坤模	湖南省宝慶府	光九、七、七	一九	武岡公立女子高等小学校	一九三、六、四	西洋画科撰科高等科	一九四、六 退学(除名)
姚国徵	湖南省湘陰縣	光〇、九、二五	一八	北京四川女子中学校	一九三、五、五	造花科撰科普通科	一九三、二 〃
陳才萃	湖南省漢壽縣	二三、四、一〇		湖南女子師範學校教員	一九三、九、一	日本画科撰科普通科	一九三、二 〃
劉襄復	廣東省広州府	二八、一、一〇			一九三、九、一〇	西洋画科撰科普通科	一九四、五 〃(都合)
鄧湘筠	湖南省衡州府	二八、三、一五		上海神州女學高等小学校	一九四、一、二	編物科速成科	一九四、六、三 卒業
林彬	安徽省懷遠縣	二三、五、三		東京大成女學校	一九四、一、二九	西洋画科撰科普通科	一九四、二 退学(除名)
李凌霜	廣東省	二九、二、九	一七	潔芳學校	一九四、二、二	〃	一九四、五、三 退学(帰国)
程文宇	廣東省広州府	二九、二、九	一七	広東女子師範學校卒	一九四、三、四	造花科撰科普通科	一九六、三、二四 卒業
胡仲敬	湖南省湘鄉縣	光九、八、三	二〇	横浜華僑學校に奉職	一九六、四、九	日本画科撰科普通科	一九六、二、二〇 退学(除名)
龍鍾光賓	四川省	光八、〇、一五	二一	湖南周南女子學校卒	一九四、三、三	西洋画科撰科普通科	一九七、三、三 卒業
程素郷	陝西省西〇〇県	一八九、三、三	二四	淑行女子中学校卒	一九四、四、八	西洋画科撰科普通科	下記へ転科
				上海競化師範女學校	一九四、四、二	西洋画科撰科普通科	一九八、一、三 退学(除名)
					一九四、四、二	編物科速成科	一九四、九、三〇 卒業

莊曾 毓瑞	福建省福州府	光三、三、五		北京女子師範學校	一九四、四	編物科撰科普通科	〃
劉震南	江西省	光九、二	二一	鄱陽公立女子高等學校卒	一九四、四、二六	造花科撰科普通科	一九六、四、四
周毓瑞	陝西省洋泉	明六、二、三	四一	競化師範學校	〃	〃	一九四、
邵碧芳	福建省	明六、二、三	四一	福建女子師範學校卒	一九四、五、二七	西洋面科撰科	一九四、
黃婉容	広東省広州府	明元、三、五	一九	大同小学校高等科卒	一九五、四、二三	西洋面科撰科高等師範科 (卒業後研究科入學)	一九九、三、二六
黃譽珍	江西省清江原	光八、五、三	二二	府立女子師範學校	一九五、六、五	刺繡科撰科	一九五、
唐守一	貴州省貴陽府	明四、一、六		貴州省女子師範學校	一九五、九、二四	西洋面科撰科	一九八、三、三
王振聲	江蘇省蘇州府	二三、五、二五		民立女子尋常師範學校卒	一九五、九、八	〃	〃
李殿春	広東省番禺県	一五		上海民国女學校卒	〃	〃	〃
徐芷齡	〃	二三、三、三二		広東官立女子師範學校卒	〃	〃	〃
成允瓊	広東省番禺県	明三、九、二六	二四	横浜女子技芸學校卒	一九八、二、二三	西洋面科撰科高等科	退学(除名)
鮑秀英	浙江省鄞県	〃		中華寧京師範高等學校卒	一九五、九、二	日本面科撰科	一九六、二、三〇
李連	江西省宜黄県	三、四		県立女子高等小学校卒	一九五、九、二七	造花科撰科	〃
李鶴琴	江西省南昌県	二五、三、二六		江西省公立義務女學校卒	一九五、一、一	〃	〃
陳美魂	広東省番禺県	明七、五、三		香山県譜郡女學校	一九六、四、二	日本面科撰科	一九八、三、三
劉育媛	湖南省武岡県	二五、四、一〇			一九六、五	刺繡科撰科	一九八、七
蕭佩琪	広東省香山県	二七、七、二			一九六、四、二五	刺繡科撰科高等科	退学
馬仲蓉	浙江省	光六、一、三			一九六、五、二	造花科撰科	一九八、三、三
王奉	広東省東莞県	〃	(一一)		一九六、六、二	刺繡科撰科	卒業
盛筱軒	広東省番禺県	〃	(二二)		一九八、九、五	刺繡科撰科高等科	卒業
楊孫津環	四川省西昌県	三〇、三、三〇	(二五)		一九六、九、三	西洋面科	退学(除名)
李守勤	江蘇省	二五、六、三〇			一九六、九、八	刺繡科撰科高等科	退学(除名)
陳寿樺	広東省番禺県	三〇			一九六、一〇、九	西洋面科普通科	退学(除名)
張吟秋	四川省成都府	〃	(三三)		一九六、九、二〇	編物科撰科普通科	退学(除名)
				国立師範學校ニテ刺繡科兼修	一九六、一〇、四	刺繡科撰科普通科	卒業(除名)
				省立第一女子師範學校中退	一九七、四、二〇	西洋面科撰科	卒業

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について



周銳子	浙江省紹興 奉天省海龍府	明三、二、二六	(一八)	上海□□校卒	一九九、九、〇	西洋面科選科	一九〇、六、二四 退学(帰国)
叢舜英	山西省	明三、二、二六	(二五)		一九九、九、二九	造花科選科	
王女英	四川省広漢県	明〇、八、五	一九	万泉県間景女子初等学堂卒	一九九、一〇、二五	造花速成科	
吳育瀛	福建省閩侯県	三、九、二	二二	福建女子□□学校卒	一九九、一〇、二〇	西洋面科選科	退学(除名)
王佩琛	福建省閩侯県	三、九、二	一六	横滨大同学校	一九〇、一、九	刺繡科選科	一九一、三、五 卒業
丁君秀	福建省閩侯県	三、九、二	一五		一九〇、一、五	刺繡科選科	
拓鳳珠	福建省閩侯県	三、九、二	一四		一九〇、一、五	刺繡科選科	
鄧萃青	福建省福州府	明三、二、二六	一四	福建女子職業卒	一九三、四、九	西洋面選科	一九三、三、二四
龍竹賢	安徽省寿県	明三、二、二六	二四	上海女子工藝学校肄業	一九三、四、三	西洋面選科	退学(除名)
崔賓珍	安徽省益都県	明三、二、二六	二二	山東濟南女子師範肄業	一九〇、二、二八	造花科選科	一九一、四、三
劉慧如	安徽省寿県	明三、二、二六	一一	上海民国女子工藝学校	一九〇、四、九	造花科速成科	一九〇、一、二〇
任璧城	安徽省鶴山	明三、二、二六	一九	上海医学専門学校卒	一九〇、一〇、二六	西洋面科選科	一九〇、二、一〇 退学(除名)
田素	四川省	光二七、五、二六	一七	日本高等女学校	一九〇、一〇、二六	西洋面科選科	一九一、三、五 卒業
毛佩玉	四川省渠県	明三、二、二六	一一	渠県女子高等小学校卒	一九〇、九、二六	西洋面科選科	一九四、三
陳彰静	四川省	明三、二、二六	(二二)	成都女子師範学校卒	一九〇、一〇、四	刺繡科速成科	退学(除名)
陳文彬	江蘇省無錫県	明三、二、二六	一八	上海城东女学校卒	一九〇、一〇、二六	刺繡科速成科	一九三、四、二
陳全貞	台湾嘉義	明三、二、二六	一八	台南長老教女学校卒	一九〇、一〇、二六	刺繡科速成科	一九三、三、二四 卒業
林賓玉*	広東省広州府	明三、二、二六	一五	横滨大同学校卒	一九〇、四、九	刺繡科選科	一九三、三、二四
施乘慧	福建省長楽県	明三、二、二六	(一八)	福建省女子職業学校	一九三、四、九	刺繡科選科高等科	
張雲連	吉林省寧安県	明三、二、二六	(二三)	寧安県立女子高等小学校卒	一九〇、一、三	刺繡科速成科	一九三、三、二四 卒業
劉映荷	山西省平定県	明三、二、二六	三〇	山西女子師範学校	一九三、一〇、六	刺繡科速成科	一九三、三、二四 卒業
曾雪梅*	広東省香山県	明三、二、二六	一五	横滨岡文学校卒	一九三、五、二四	刺繡科選科	一九三、三、六 退学(除名)
虞小棠	厦門思明県	明三、二、二六	(二〇)	教師	一九三、四、九	刺繡科選科高等科	一九三、三、二四 卒業
熊淑貞	貴州省貴陽県	明三、二、二六	一七	貴州省達徳高等小学校卒	一九三、四、九	造花科選科	一九四、二、一八 退学(転居)

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

周同	耿文	廖彩雲	鄭鳳仙*	張金蓮	鮑燕屏	周素嫻*	孔勝芝	葉春魁	鄭紹鸞*	章滌生	陳人馨	陳人貴	賀秀玉	徐櫻芬	吳毓芬	王鳳萃	江淑仙	鮑魂仙*	余順和	陳孟群	葉如蘭
江蘇省武進縣	山西省聞喜縣	台灣台南	廣東省香山縣	浙江省寧波府	廣東省香山縣	廣東省	浙江省	陝西省乾縣	廣東省香山縣	福建省莆田縣	四川省岳池縣	四川省岳池縣	四川省安岳縣	吉林省	吉林省吉林縣	湖北省京山	四川省江津縣	廣東省	四川省重慶府	貴州省修文縣	貴州省
明四、三、三	明五、八、二	明五、八、七	明四、三、三	明四、三、三	明五、八、二	明五、五、七	明六、三、三	明六、二、二五	明七、一、六	明三、一、三	明三、二、六	明六、五、六	明六、五、七	明三、七、七	明三、七、七	明三、二、九	明三、二、九	明七、五、五	明三、八、二〇	明一六、一〇、四	
一一二	二〇	二〇	一六	一六	一六	一七	一八	二四	二二	二六	三二	二六	一六	(二六)	二二	二一	二一	二〇	三七	(二六)	三七
北京女子高等師範西洋畫科卒	山西第二女子師範學校卒	台灣彰化學校卒	橫濱華僑學校卒	中華學校卒	橫濱大同學校卒	橫濱大正実科高等女學校卒	鄭縣私立美術女學校	陝西省立女子師範學校卒	□青女學校卒	岳池女子師範學校卒	岳池女子師範學校卒	岳池女子師範學校卒	四川省立第二女子師範卒	民國高等女學校	吉林省立女子師範	女子中學校卒	新本女學校卒	橫濱高等小學校卒	北京女子師範講習科卒	上海務本女學校卒	日華學校・東亞學校
一九三、一〇、二〇	〃	〃	一九五、四、九	〃	〃	〃	一九三、四、九	一九四、四、九	一九三、四、九	一九三、四、九	一九三、四、九	一九三、四、九	一九三、五、一	一九三、四、九	一九三、二、一	一九三、一〇、三	一九三、九、六	一九三、五、九	〃	〃	〃
西洋畫科選科	西洋畫科選科	造花科選科	刺繡科速成科	刺繡科選科高等科	〃	〃	刺繡科選科	刺繡科選科高等科	刺繡科選科	刺繡科選科	刺繡科選科	刺繡科選科	刺繡科速成科	刺繡科速成科	造花科速成科	造花科選科	造花科選科	西洋畫科選科	西洋畫科高等師範科(轉科)	西洋畫科選科	西洋畫科選科
一九六、三、二五	一九五、三、二五	一九五、三、二五	一九四、一、三	一九五、三、二五	一九五、三、二五	一九五、三、二五	一九三、三	一九六、三、二	一九三、七、九	一九三、三、二	一九三、三、二	一九三、三、二	一九五、二、一	一九三、一〇、一五	一九四、三、二五	一九三、三、二	一九三、三、二	一九三、三、二	一九三、三、二	一九三、三、二	一九三、三、二
〃	卒業	卒業	退学(除名)	〃	〃	卒業	〃	退学(除名)	〃	〃	卒業	〃	〃	〃	卒業	退学(除名)	退学(除名)	退学(除名)	卒業(選科)	退学(除名)	退学(除名)

毛孟馨	貴州省龍里県	(一九)	民國達往師範學校卒	一九六、四、九	西洋面科選科高等科	一九七、三、三五	退学(都合)
陳蕙中*	広東省香山県	(一九)	同文学校卒	一九四、一、二五	刺繡科選科	一九六、三、三〇	〃 (除名)
李氏英	台湾新竹州	一六	台湾公学校卒	一九四、四、九	〃	一九五、七、三〇	卒業
吳順寛	台湾台南市	一六	台南□教員講習所卒	〃	〃	一九五、一〇、三〇	退学(除名)
王優仙	陝西省	一七	陝西省立女師卒	〃	造花科選科	一九六、一、一八	卒業
趙光璧	奉天省遼陽県	二〇	遼陽女子師範卒	〃	〃	一九六、三、三五	〃
林志韻	広東省大埔県	一七	上海務本学校卒	一九六、一、二七	刺繡科選科	一九八、三、三四	〃
何英慎	陝西省乾県	三	乾県初級中学校卒	一九八、九、二四	刺繡科選科高等科	一九九、七、二三	〃
趙鳳藻	広東省香山県	一九	〃	一九四、九、六	造花科速成科	一九五、三、三五	〃
王淑筠	旅順市	一九	京都同志社女学校卒	一九五、一、二三	刺繡科選科	一九六、三、三五	卒業
張印方	直隸天津	二二	天津女子師範卒	一九五、四、九	刺繡科選科高等科	一九七、三、三五	退学(除名)
王雲晴	山西省汾陽県	一七	共立女子職業学校卒	一九七、一〇、二六	刺繡科選科高等科	一九八、三、三〇	退学
揚馮佩萱◎	雲南省大理県	一七	大理県城立女子師範卒	一九五、四、九	刺繡科選科	一九七、三、三五	卒業
王侗華	陝西省乾県	二二	省立女子師範卒	一九五、一、二七	造花科選科	一九七、三、三五	〃
王文彬	四川省璧山県	二二	〃	一九六、四、九	編物科速成科	一九六、三、三五	〃
趙胡鸞書	雲南省順寧県	(二四)	大妻技藝学校卒	一九六、一〇、二五	刺繡科選科	一九六、一〇、二五	卒業
鄭瑞貽	福建省	(一九)	福建女子中学校卒	一九六、九、六	造花科選科	一九七、九、六	退学(都合)
鮑瑞嬌*	広東省中山県	一五	日の出高等女学校	一九七、四、九	刺繡科選科	一九七、五、三	〃 (除名)
陳玉蓮*	〃	二一	酒井助産婦学校卒	〃	編物科速成科	一九七、二、二八	〃
龔岫瑛	吉林省榆樹県	二二	県立国民小学初級中学校卒	〃	〃	一九七、一〇、二五	卒業
趙子嫻*	広東省中山県	二三	横浜華僑高等小学校卒	一九七、一〇、二六	造花科速成科	一九八、一、八	退学(妊娠)
林麗珍*	広東省	一八	横浜大同学校卒	一九七、四、九	刺繡科選科	一九八、三、三四	卒業

揚妙	張學貞	柳妙好*	林小琴	陳翊	馮佩萱◎	鄧惠冰	楊蔭芳	李慧貞	黎玉蓮*	趙亦娉*	陳氏從	林氏靜	郭嬋玉*	黃慧娟*	盧連桂*	揚氏毛治	張淑珍	俞孟箴	馬秀君	何言足	陸建庭	鄭雪園	張叔儀	鮑月英	何氏翠雲	
廣東省中山縣	奉天省遼陽縣	廣東省	廣東省梅縣	福建省福州市	廣西省昭平縣 又(雲南大理縣)	廣東省東莞縣	廣東省中山縣	廣東省欽縣	廣東省高明縣	廣東省新會縣	台灣	台灣	廣東省三水縣	廣東省	廣東省中山縣	台灣台北市	浙江省平陽縣	江蘇省常熟縣	奉天省遼陽縣	湖北省	江蘇省	福建省龍溪縣	四川省	廣東省中山縣	台灣	
明三、五、一	光三、三、三	明三、七、四	明三、一〇、七	明三、一〇、七	明三、一〇、七	明三、三、四	明三、三、四	明三、三、四	明三、九、七	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五	明三、一〇、二五
二三	二五	一七	(二六)	二五	二二	二七	(二〇)	一八	一五	一五	一一	一一	一七	一八	一四	一八	二四	二〇	二二	二二	二四	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	
神戸シンガール縫院卒	奉天省立女子師範卒	同文学校卒	梅縣立師範學校卒	福建女子師範學校卒	大理縣女子師範卒	雲南省女子師範卒	執信中學校卒	廣東中山師範卒	神戸華僑同文学校中等科卒	神戸華僑同文学校卒	台北第三高等女子學校卒	〃	神戸恵〇裁縫科卒	横浜大同学校卒	横浜中華公立學校卒	州立台北第三高等女學校卒	省立第一女子中學校卒	女子美術一年專造花部卒	福建龍溪女子職業中學校卒	四川省立女子師範學校卒	神戸華僑學校卒	州立台南高等女學校				
〃	〃	〃	一九七、一〇、二五	一九七、四、九	〃	一九三〇、四、九	一九七、一〇、二五	一九八、一、二	一九八、四、九	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九八、二、一九	一九八、一〇、一九	一九九、二、一九	一九九、四、九	一九九、四、九	一九九、四、九	一九九、四、九	一九九、四、九	一九九、四、九	一九九、四、九	
造花科速成科	〃	〃	造花科選科	造花科速成科	造花科選科	一年制專修科造花部	造花科速成科	刺繡科選科	造花科選科	刺繡科高等科	〃	〃	刺繡科選科	〃	〃	師範科刺繡部	刺繡科選科	造花科速成科	〃	〃	一年制專修科造花部	研究生	刺繡科選科	〃	一年制專修科造花部	
一九八、一、八	一九七、一〇、二五	〃	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九三、四、一六	一九八、五、三	一九八、七、二〇	一九九、三、七	一九八、五、二四	一九九、三、三	一九八、二、二〇	一九八、二、二〇	一九八、二、二〇	一九八、二、二〇	一九三、三、二五	一九九、五、一	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九九、三、二五	一九九、三、二五
退学(病氣)	卒業	〃	〃	〃	退学(除名)	〃	卒業	退学(除名)	卒業	退学(除名)	退学(除名)	退学(除名)	退学(除名)	退学(除名)	退学(除名)	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	退学(除名)	退学(除名)	退学(除名)	退学(除名)	退学(除名)

林氏靜	台灣	明三、一、二	二三	州立台北第三高等女学校	〃	日本画科高等師範科	一九三〇、二、二	〃	(除名)
陳宛如	四川省成都	明四、一、一	二一	成都公学高級文科卒	一九三〇、四、九	〃	一九三三、三、二五	〃	卒業
楊桂儒	黑龍江省哈尔滨	明四、五、七	一八	哈尔滨女子中学卒	〃	〃	〃	〃	〃
孫薇美	浙江省	明四、四、三	二〇	浙江寧波民強中学卒	〃	〃	〃	〃	〃
何佩文	広東省番禺県	明四、一〇、一〇	(二三)	広東省女子師範学校卒	〃	一年制專修科刺繡部	一九三二、五、二五	〃	〃
李靜	江西省永新県	明四、一〇、一〇	二〇	江西省永新私立職業学校卒	〃	〃	一九三三、三、二五	〃	〃
李碧雲	江西省安福県	明四、二、二四	一九	江西省立第一中学校卒	〃	〃	〃	〃	〃
劉夢仙	吉林省賓県	明四、二、一〇	二〇	女子美一年專刺繡部卒	一九三二、四、九	高等科西洋画部	一九三三、三、二五	〃	退学(除名)
熊佳蕙	江西省南昌県	明三、一〇、三	二四	哈尔滨東省特別区立女中卒	一九三〇、四、九	一年制專修科刺繡部	一九三二、五、二五	〃	卒業
龍澤汶	雲南省昭通県	〃	〃	省義務女学校旧制師範卒	〃	一年制專修科造花部	一九三三、四、二六	〃	退学(除名)
承旋	江蘇省常州府	〃	〃	雲南省女子中学高級部卒	〃	〃	一九三〇、三、一	〃	〃
張厚礎	河北省南皮県	明三、二、五	二六	江蘇武進師範学校卒	〃	〃	一九三〇、六、一	〃	〃
夏宏武	浙江省温州	明三、三、三六	二四	天津聖□女学校卒	〃	〃	一九三二、四、一六	〃	〃
龍之荀	雲南省	大、一、七、七	一七	浙江省杭州女子師範卒	〃	〃	一九三〇、三、一	〃	〃
劉月庵	吉林省永吉県	明四、一、三	二〇	雲南女子高級中学校卒	〃	一年制專修科刺繡部	一九三〇、九、六	〃	〃
劉殿英	雲南省昆明県	大、一、九、九	一七	吉林省立女子師範学校卒	〃	〃	一九三〇、二、七	〃	〃
保瓊芝	雲南省昭通県	大、一、二、八	一七	雲南省立女子中学初級部卒	〃	〃	一九三〇、九、六	〃	〃
徐懿蘭	広東省梅県	〃	(二四)	雲南省雲南東陸大学予科卒	〃	〃	一九三〇、九、六	〃	〃
韓培瑜	広東省梅県	〃	(二五)	広東省梅県立女子師範卒	〃	〃	一九三二、二、九	〃	(病气)
許華	江蘇省呉県	〃	(二五)	広東省女子職業学校卒	〃	二年制專修科刺繡部	一九三二、二、九	〃	(除名)
張淑竊	河北省棗強県	〃	〃	上海芸術大学卒	一九三二、四、九	二年制專修科造花部	一九三三、三、三	〃	〃
沈令融	浙江省海塩県	明四、四、二六	二二	競進師範学校卒	〃	〃	〃	〃	〃
朱蘭英	〃	〃	〃	中法大学孔德学院予科卒	一九三二、六、一八	〃	〃	〃	〃
鄧君毅	安徽省懷寧県	明三、三、二	二三	海塩女子師範学校卒(教員)	一九三二、四、九	一年制專修科造花部	一九三五、三、二六	〃	卒業
馬氏珍寶	台湾台南市	明四、一〇、七	二三	安徽省立高級中学師範科	一九三三、四、九	一年制專修科造花部	一九三六、三、二六	〃	〃
				台南長老教女学校卒	一九三三、四、九	一年制專修科刺繡部	一九三四、八、三	〃	退学(都合)
					一九三四、四、九	二年制專修科刺繡部	一九三四、三、二五	〃	卒業
					一九三四、四、九	二年制專修科刺繡部	一九三五、三、二六	〃	〃

中国人女子留学生を受け入れた私立三校について

歐陽晰	江西省景德鎮	大四、三、六	一九	江西省立第一女子中學校卒	〃	一年制專修科造花部	〃
朱文英	江西省蘇州縣	大三、三、一〇	二一	上海允中女子學校卒	〃	〃	〃
劉瑞雲*	閩東州旅順	明四、一、二五	二七	大同女子技芸卒	一九五、四、九	一年制專修科刺繡部	一九六、三、二四
孟昭美	河北省天津縣	四、七、二〇	一九	天津南海大學文學院二年修了	一九五、四、九	一年制專修科刺繡部	一九七、三、二六
孫 竦	江蘇省無錫縣	〃	二二	天津南開女子中學校卒	一九五、四、九	一年制專修科刺繡部	一九六、三、二四
劉 容*	黑龍江省	大三、三、三	二二	齊齊哈爾女子中學校卒	一九五、四、九	一年制專修科刺繡部	一九六、三、二四
王 雪梅	廣東省遂溪縣	〃	二一	廣東省執信中學校卒	〃	〃	〃
岳 劍平*	奉天省	大三、八、一	二〇	奉天省立女子體育專門卒	〃	〃	一九三、七、二
于 琴香※	奉天省金縣	大四、六、九	二〇	奉天馮庸中學校卒	〃	一年制專修科刺繡部	一九七、三、二六
陳 良瑛	福建省閩侯縣	〃	〃	上海新華□芸專科學校卒	〃	一年制專修科造花部	〃
陳 肖蘭	〃	〃	〃	爪哇王賣壠大中學高中卒	〃	〃	〃
王 粵先	湖北省武昌	二、四、九	〃	省立高級女子師範卒	〃	〃	〃
黃 玉秀	安徽省休寧縣	〃	〃	安徽省立女子職業	〃	〃	〃
梁 月賢※	閩東州魏子窩	大四、二、七	二〇	大連大同女子技芸學校卒	一九七、四、九	專修科洋裁部	一九八、三、二五
張 淑瑛	浙江省山陰縣	〃	〃	河北省保定第二女子師範卒	〃	〃	〃
金 鈴春※	吉林省吉林市	大七、二、二六	一八	省立女子女子師範學校卒	〃	高等科西洋面部	一九〇、三、二五
曾 耀宗※	奉天省鐵嶺縣	大〇、八、七	一五	哈爾濱第一女子中學校卒	〃	〃	一九四、三、三
秀 榮蕙※	錦州省北鎮縣	大六、一、二五	二一	北鎮縣立女子師範卒	一九六、四、九	二年制專修科造花部	一九四、三、二五
楊 玉鳳※	閩東州	大八、二、二七	一九	大同芸專卒	〃	〃	〃
羅 雲霞	山東省蓬萊縣	大〇、九、二四	一六	〃	〃	〃	〃
楊 景棣※	吉林省	大九、一、二三	一九	吉林省女子師範卒	一九五、四、九	專修科洋裁部	一九四、二、二六
金 蓮榮	北京市	大二、八、一六	一六	崇貞學園中學校卒	〃	高等科日本面部	一九四、三、三
曾 效宗※	哈爾濱	大三、八、一五	一七	哈爾濱龍光學院卒	一九五、三、三	二年制專修科刺繡部	一九四、三、三
廖 喜久子	台灣台南州	又大三、八、一五	一八	女子美二年制專修科刺繡部卒	一九四、四、九	專修科洋裁部	一九四、三、二
高 尚廉※	奉天市瀋陽區	大三、三、五	一七	台南長榮高女卒	〃	一年制專修科造花部	一九四、三、二
張 瑞第	河北省宛平縣	大八、一〇、一〇	一七	奉天女子國民高等學校	〃	高等科西洋面部	一九四、三、二
				河北省立師範	一九四	師範科西洋面部	退學(除名)

陳公美	台湾台南県	昭三、九、二	一七	櫻蔭高女	一九六、五、二五	絵画科(洋画)	一九六、三、三〇	◇ (事故)
-----	-------	--------	----	------	----------	---------	----------	--------

注・(1)、生年月日欄の「光」は、中国年号の光緒であり、「明」、「大」、「昭」は、それぞれ、日本年号の明治、大正、昭和を示す。  
 (2)、入学年齢欄の( )内の数字は、元資料記録のままであり、それ以外の数字は、元資料の生年月日に基づいて、筆者が満年齢に換算したものである。

※は「満洲国」。

\*は華僑と思われる学生。

□は判断不能の文字。

◎は同一人物の可能性がある者。

出典・私立女子美術学校・女子美術学校・女子美術専門学校「学籍簿」より筆者作成。